

ボビー・マジック

都合により、勝手ながら2ヶ月ぶりの執筆となります。今年も早11月となり、注文していた年賀状が今日届きました。朝夕寒くなってきましたので、体調管理にはご留意願います。

さて、プロ野球日本シリーズでは、リーグでは圧倒的な強さを見せた阪神タイガースが屈辱の4連敗で、期待された20年ぶりの日本一はかないませんでした。実にシリーズ4戦の総得点は4対33と圧倒され、ロッテがチーム最多得点・最多本塁打・最多塁打・・・と4試合シリーズ記録を次々と塗り替えたのとは対照的に、阪神は、チーム最小得点・最低打率・最小安打・本塁打0・・・とワースト記録をこれまた塗り替えました。ロッテはレギュラーシーズン以上の力を発揮したのに、阪神はほとんど力を出し切れず、ファンにとっては実にイライラの連続だったのではないのでしょうか。ちなみに、一足早く、ファームでもロッテが阪神を下して初の日本一になっていました。

ロッテは、パ・リーグのプレーオフでは西武に2連勝した勢いで実戦から遠ざかっていたソフトバンクに勝利し、その勢いが日本シリーズで加速したのに対し、阪神はレギュラーシーズンを終えて3週間近く実戦から遠ざかっていた実戦感覚の差が出ました。短期決戦では「勢い」というものがいかに重要か思い知らされました。ソフトバンクは昨年に続きレギュラーシーズン1位ながら日本シリーズにはでられなかったという矛盾。パ・リーグの2位チームが一番日本一に近い？という、制度そのもののひずみもあるのかもしれませんが、阪神にはセ・リーグ代表としての意地をもうちょっと見せてもらいたかったのですが・・・。

思えば、パ・リーグのお荷物球団とまで言われたロッテは30年間も優勝から遠ざかり、長く低迷していました。万年Bクラスで負け犬根性がはびこり、1998年にはワースト記録の18連敗を喫し、ドラフトでは指名選手からは入団を拒否され、極めつけは今年の球界再編問題で、ダイエー(現ソフトバンク)と統合される寸前までいきました。

しかし、今年は「たくさんのファンが見守ることで選手は育ち、強くなる」との球団成功の方程式を実践し、本格的な改革を行いました。例えば、ファンが球場で着るユニフォームの背番号はすべて「26」とし、これは、ベンチ入り25選手に次ぐ戦力としての「26」で、この番号は永久欠番にしました。そういえば、ロッテの応援はファンがすべて同じ色のユニフォームを着て、全員が飛び跳ねるような一種独特のものがあります。野球というよりまるでサッカーの応援のようです。

ボビー・バレンタイン監督は、采配面では日替わり打線ですべてのように打順を入れ替えました。日替わり打線には、相手投手に合わせるという面と、選手の競争心を高めたり、休ませるという側面もあったようです。「毎日同じメンバーだったら誰が監督をしても同じ」というのが持論だという。これは、予告先発があるパ・リーグだからなせることであり、今回シリーズであえて予告先発を行った阪神にとっては裏目にでたような気がします。バレンタイン監督は決して選手を叱ったりしないそうです。「試合を楽しめ」というのが口癖で、選手を乗せるのがうまいんでしょうね。日本一に輝いた記者会見では「私の采配がマジックと言われるのは、マジックのように素晴らしいプレーをみせる選手がいたから」と語っていました。

長らく低迷していたのは阪神も同様で、2002年に就任した星野監督が1年目4位、2年目でセ・リーグ制覇へと導いたのと同様、ボビー・バレンタイン監督も昨年9年ぶりにロッテに復帰し、1年目4位、2年目で見事31年ぶりのリーグ制覇と日本一を成し遂げました。いずれも、再生したチームとして、今後もセ・パ両リーグで黄金期を築いていっていただきたいと思います。阪神には、この悔しさを忘れずに、来年もリーグ制覇し、ぜひ日本一に挑戦してほしい！